

令和7年度 後期学校評価

自己評価書



令和7年12月
鬼北町立泉小学校

鬼北町立泉小学校 令和7年12月

【評価基準】 A：目標を達成 B：75%以上達成 C：60%以上達成 D：60%未満の達成								E：そう思う F：どちらかと言えばそう思う G：どちらとも言えない H：思わない								
項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評定	アンケート結果(%)						担当者		
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均			
1 豊かな心と健やかな体の育成	生徒指導の徹底	① 基本的な生活習慣（気持ちのよい挨拶）は、適切に指導され、身に付いてきている。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員における指数85%以上	A	【考察】＜前期比較 3ポイント上昇＞ 教職員の評価において肯定的な評価が増加した。しかし、児童の評価は落ちている。また、低評価をつけた保護者も増加した。児童会を中心に挨拶動画を制作したり、毎月の「あいさつ名人」を称賛したりと様々な工夫をしたことで、挨拶の目標達成レベルが児童の中で上がっている可能性がある。できているところはしっかりと奨励することも必要と考える。児童自身が進んで挨拶や返事をしたり、保護者や地域の方にも認められる挨拶ができたりするよう、一層の取組を進めていく必要がある。 【改善方策】 ①児童会が行っている挨拶運動を継続し、児童の意識を一層高めていく。 ②挨拶や返事等の向上を目指し、「いずみの子7つのやくそく」の内容のレベルアップや、更によりよく実行していくための方策等を児童会や学級で話し合う。	児童アンケート（7つのやくそく） A 55 46 0 0 89 児童アンケート（あいさつ） B 49 33 18 0 83 保護者アンケート B 48 40 12 0 84 教職員アンケート A 75 25 0 0 94 地域有識者アンケート A 63 38 0 0 91	※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。	88	生徒指導主事							
		② 教育相談や教育相談的対応に取り組む、児童理解とコミュニケーションが深化した。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】＜前期比較 2ポイント上昇＞ 児童の指数に上昇が見られ、毎月の学校生活に関するアンケートの実施やSSWとの連携、全教職員が教育相談にあたる機会の設定など、教育相談の機会を多く設定したことによる成果と思われる。しかし、否定的な評価をしている児童もいるので、個別に支援をする必要がある。また、保護者全体の指数は変わらなかったが、評価を下げた保護者もあるので、一層の取組を進めていく必要がある。 【改善方策】 ①学級担任による定期的な教育相談の実施、SSWによる教育相談の充実を今後も継続し、児童全員が、教職員と相談できる機会を設定する。 ②小規模校であることのよさを生かし、全教職員が全児童を見守る意識で教育活動に取り組む。	児童アンケート B 52 39 6 3 85 保護者アンケート A 50 41 9 0 85 教職員アンケート A 88 13 0 0 97	※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。	89	生徒指導主事							
	健康安全教育の推進	① 教科体育・体育的行事の指導が充実し、体力向上に役立った。	児童、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】＜前期比較 1ポイント上昇＞ 特に、児童の評価が向上した。体育科の授業やたかのすタイムを活用した持久走練習の成果を持久走記録会で発揮できた児童が多かった。また、3年生以上の児童は放課後の陸上練習にも継続的に、積極的に取り組むことができていたので、評価の上昇につながったと考える。さらに、児童会を中心とした全校遊びを通して、屋外活動をする機会が増えたこともよかった。 【改善方策】 ①今後も教科時数の適正な取得計画に沿って、教科体育を進めるとともに、たかのすタイムの効果的な活用も工夫改善していく。 ②児童会を中心として、今後も全校遊びを行い屋外での活動をする機会をとる。	児童アンケート A 91 9 0 0 98 教職員アンケート A 75 25 0 0 94		96	生徒指導主事							
		② 適切な給食指導や保健指導及び交通指導等を実践し、校内外における健康・安全の確保に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】＜前期比較 2ポイント上昇＞ 児童、保護者ともに、評価が向上もしくは同等であり、健康・安全に関する指導が適切に実践されていることが伺える。保健集会でメディアの視聴について学んだことも、自分の健康について考えるよい機会となった。給食指導について、偏食をする児童がいて、時間内に給食を食べることができない様子が見られるので、今後も継続して指導していく必要がある。毎朝の地域の方や校長等による見守り活動は児童の安全確保に大変ありがたい。特に地域の方には今後も協力をお願いしたい。 【改善方策】 ①現在行っている保健指導を継続するとともに、保健給食委員会の啓発の取組を今後も行っていく。 ②給食の量については、時間内に食べられる量を個別に対応する。 ③食の大切さを児童へ啓発し、少しでも偏食を解消する工夫を行う。	児童アンケート（登下校の安全） A 88 12 0 0 97 児童アンケート（歯磨き、洗顔、朝食） A 82 18 0 0 95 保護者アンケート（保健指導・交通指導） A 71 29 0 0 93 保護者アンケート（生命尊重） A 71 29 0 0 93 教職員アンケート A 75 25 0 0 94		94	生徒指導主事							
特別支援教育・人権教育・道徳教育の推進	① 生活班活動や児童会活動、学校行事等を通じて友達と協力して物事をやり遂げたり高め合ったりする心を育てている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数85%以上	A	【考察】＜前期比較 増減なし＞ 全体の指数に変化はないが、児童の評価がやや下がった。児童会活動や委員会活動等に真面目に頑張っており取り組みなかったと自己評価をした児童が数名あったためであると推察する。日々の活動に一生懸命に取り組む児童も多いので、そのよさを広げ、より多くの児童が活躍できる機会を増やしていけるようにしたい。 【改善方策】 ①縦割り班活動や委員会活動等の高学年がリーダーとして活躍できる場、児童一人一人が認められ活躍できる場を盛り込んだ活動を継続していく。	児童アンケート A 79 15 6 0 93 保護者アンケート A 48 48 4 0 86 教職員アンケート B 38 63 0 0 84	※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。	88	生徒指導主事								

鬼北町立泉小学校 令和7年12月

【評価基準】		A:目標を達成		B:75%以上達成		C:60%以上達成		D:60%未満達成		4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない									
項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方策	評価資料		評定	アンケート結果(%)							担当者			
		評価指標	目標値						4	3	2	1	指数	全体平均					
2	授業力の向上	① 目標と指導と評価の一体化を目指し、ねらいを明確にした授業を展開している。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】＜前期比較 1ポイント上昇＞ 全体平均はやや上昇したが、特に保護者の評価が低下した。児童の指数は上昇したが、1の評価をつけた児童もいる。教職員の評価は向上しているので、ねらいをしっかりと持って臨んでいるが、児童に十分伝わっていない部分もあると推察する。ただ、児童評価4は向上しているので、児童の学習理解度の二極化傾向が進んでいると推察できる。児童の学習理解が深まらなければ当然保護者の評価も低下する。日頃からねらいの提示、振り返りの場の設定を確実に行って学習理解を深めるように取り組み、ノート指導や参観日等で、ねらいを明確にした授業が展開されていることを今後も啓発する場があるといふ。 【改善方策】 ①ねらいの提示、振り返りの場の設定を確実に行うことを今後も継続するとともに、他者評価なども取り入れながら学習意欲の涵養と学力の向上を図る。 ②ノート指導や課題への取組指導にも気を配り、保護者がノートを見て、学習がきちんと進んでいることが確認できるようにする。	児童アンケート A 61 36 0 3 89 保護者アンケート B 44 39 9 9 79 教職員アンケート A 75 25 0 0 94	87	※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。	学力向上推進主任										
		② 自分の考えをまとめたり、表現したりする活動を大切に授業を展開している。	教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】＜前期比較 5ポイント低下＞ タブレット端末の活用が当たり前となり、どの学年も新聞作成や文章作成などで自分の考えをまとめたり、表現したりすることはできている。ただ、教職員によりタブレット端末の活用頻度に差があったり、学習展開の在り方に違いがあったりして、評価が下がったと推察する。児童が対話を通して自分の考えを述べ合ったり、新聞や作文等にまとめたりする主体的な学びを一層進める必要がある。 【改善方策】 ①授業や集会等において、自分の考え及び感想を発表する場や、短作文等を通じた書く場を、今後も継続的に設定する。 ②文字表現と口語表現の両方を大切に授業や活動の充実を図るとともに、それをコーディネートする教職員の資質や能力の向上に向けた研修等を一層進める。	教職員アンケート A 50 50 0 0 88	88	学力向上推進主任											
	基礎・基本の定着	① 「学びの約束」を指導し、学習規律の確立に努めている。	児童、教職員アンケートにおける指数 85%以上	B	【考察】＜前期比較 2ポイント低下＞ 児童、教職員ともに評価が下がっている。特に児童はその傾向が強い。各学級で、学びの約束が守られている内容と、守れていない内容を整理し、各学級で取り組むべき項目を重点化したり、学習規律を大切に学習指導の徹底を図ったりすることが必要である。 【改善方策】 ①学びの約束の項目内容を再確認し、より具体的な姿を児童に示すようにする。 ②学習規律の在り方について教職員間で再確認し、児童がよりよい学習の姿を意識できるような「学びの約束」の重点化を図る。	児童アンケート B 42 46 9 3 82 教職員アンケート B 50 38 13 0 84	83		※合計が100%になっていないところがあります。これは、計算上出てきた十分の一の位を四捨五入しているためです。	学力向上推進主任									
		② 漢字の読み書きや計算の定着を目指し、リプレイ等で繰り返し指導している。	保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】＜前期比較 増減なし＞ 様々な教材を活用して学力の定着と向上を図っており、児童の評価も向上している。タブレットを活用したデジタル教材やドリル学習など、個に応じた学習環境も整っている上で、児童のニーズに応じた取組を今後も継続したい。ただ、教職員からは児童の学力差が広がっているという声も上がっており、基礎基本の徹底を図ることや読解力の向上など、課題意識を持って取り組む必要がある。 【改善方策】 ①デジタルとアナログの課題のバランスを取り、各自の学力に応じた学習方法を身に付けさせる。 ②個に応じた課題の出し方等を改善し、児童が学習に意欲的に取り組めるよう工夫する。	保護者アンケート A 56 36 8 0 87 教職員アンケート A 57 43 0 0 89	88	学力向上推進主任											
	家庭学習の定着	① 家庭学習の各学年の目標時間が達成できるよう指導や啓発に努めている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	B	【考察】＜前期比較 1ポイント低下＞ 保護者の指数が前期より6ポイント低下した。家庭学習チェック週間を活用し、家庭学習の啓発を進めてきたが、十分に生かされていないと推察する。家庭学習の時間に焦点を当て、家庭学習の習慣付けをねらいとして行ってきたが、今後は学習内容の在り方や課題への取組み方などにも焦点を当てて改善していく必要がある。 【改善方策】 ①家庭学習の時間をしっかりと確保することはもとより、学習内容や課題への取組み方など、具体的な家庭学習の例を示し、効果的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。	児童アンケート B 61 24 9 6 85 保護者アンケート B 28 52 12 8 75 教職員アンケート A 71 29 0 0 93	84		学力向上推進主任										
	読書活動の推進	① 読書到達目標の達成に向けて、読書指導を行っている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける指数 85%以上	A	【考察】＜前期比較 4ポイント上昇＞ 図書委員会を中心に様々なイベントを企画し、児童が積極的に本に触れる機会を増やしたことが効果的であった。ただ、図書室に行く機会や貸出冊数は増えたが、じっくりと本を読み、話の中心を深く考えたり、知識等の習得につなげたりしているような面での充実度は低いと感じている教職員もいる。 【改善方策】 ①たかのすタイムに読書タイムを確実に設定したり、登校後の空き時間に読書をしたりするなど、落ち着いた読書をする時間を設定し、本を読む楽しさを味わう機会を持たせる。 ②図書委員会の取組を今後も活性化させ、本に親しむ機会を確保し、読書のよさや大切さを一層啓発していく。	児童アンケート A 67 27 6 0 90 教職員アンケート A 100 0 0 0 100	95	学力向上推進主任											

鬼北町立泉小学校 令和7年12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:75%以上達成 C:60%以上達成 D:60%未満の達成													4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない													
項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方針	評価資料	評定	アンケート結果(%)						担当者												
		評価指標	目標値					4	3	2	1	指数	全体平均													
3	家庭・地域との連携	地域に根ざした特色ある学校づくり	① 通信や配付文書、家庭訪問・懇談会・電話連絡等による情報提供が行われている。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員における指数85%以上	A	【考察】<前期比較 3ポイント上昇> 保護者、地域の方からの評価も高い。学校ホームページの更新が頻繁に行われており、学校の様子がよく伝わるよう努力されているという意見もいただいている。また、保護者への配付文書の多くをデジタルに移行したことにより、教員の負担軽減とともに確実な配付が実現できている。ただし、プリント等を家の人に渡していないと回答する児童も散見されるので、学校での指導とともに家庭での声掛けをお願いしたい。 【改善方針】 ①配付文書のデジタル化を中心に、今後も様々な情報伝達手段を利用しての情報発信を行いながら、家庭・地域との連携を図っていく。 ②学校ホームページの更新については、毎日更新されている。今後も継続し、タイムリーな情報を発信する。	児童アンケート	A	67	24	9	0	89	96	教頭 ◎教務											
		② 地域に根ざした教育活動やPTA活動を通して、保護者や地域、関係機関との連携が深まった。	児童、保護者、教職員、学校運営協議会委員における指数85%以上	A	保護者の指数はやや下がったものの、保護者、教職員、地域有識者の指数は増加した。特に、学習発表会で鬼北文楽の保存に関して発表したことや地域学習の様子を伝えたことが高評価につながった。今後総合的な学習等を活用した地域学習を進めていくことが大切である。また、公民館の持つ過去の写真資料等の展示機会の有効性についての御意見もいただいた。公民館等との連携を一層深く、地域学習を進められるようにしたい。 【改善方針】 ①PTAや公民館と情報を共有し、連絡を取り合いながら一層、地域教育活動の充実を図る。 ②地域の人材や教材の整理をし、年間計画と関連させた教育活動を推進する。	保護者アンケート	A	72	28	0	0	93	教職員アンケート			A	100	0	0	0	100	地域有識者アンケート	A	100	0	0
4	教職員の資質・能力の向上	現職教育の充実、人的・物的・事務管理	① 効果的な校内研修が実施され、資質・能力の向上や自己研修に役立った。	教職員アンケートにおける指数90%以上	A	【考察】<前期比較 3ポイント上昇> 研修主任の提示した研修計画が年間を通してしっかりと実施できている。今年度は愛媛県教育委員会主催の授業力パワーアップ研究会やNIE教育の指定を受け、授業研究を中心とした研修機会が増加したが、前向きに研修に取り組むことのできた教職員が多かったと感じられる。 【改善方針】 ①全教職員が、NIE教育の充実や主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践等に向けた研修に取り組む。 ②デジタルとアナログのベストミックスを志向しながら、児童の学力の向上や表現力の育成に向けた研修に取り組む。	教職員アンケート	A	100	0	0	0	100			100	◎教頭 ◎研修									
		② 連絡・報告・相談の徹底を図り、服務規律を厳守している。	教職員アンケートにおける指数90%以上	A	【考察】<前期比較 増減なし> 前期評価に引き続き、教職員が互いにコミュニケーションを図りながら、明るい職場づくりの推進が図られている。口頭、紙媒体、デジタルでの連絡等、多様な方法で、確実に連絡等がつながるように全教職員が意識できている。 【改善方針】 ①今後も連絡・報告・相談を徹底し、全教職員が共通理解を図りながら、気持ちよく働くことのできる職場を目指す。	教職員アンケート	A	100	0	0	0	100	100			◎教頭 ◎教務										
	学校運営協議会委員の所見		③ 適切な人的管理と物的管理が行われ、生命を尊重する環境づくりに努めている。	教職員、学校運営協議会委員における指数90%以上	A	【考察】<前期比較 1ポイント上昇> 毎月の安全点検で学校施設等を確認し、何かあれば、管理職が対応したり、教育委員会と相談して、修繕等の対応をとったりできている。地域の方からも、校舎内外の環境等について落ち着いた教育環境となっていると評価していただいている。 【改善方針】 ①管理職が各担当教員との相談を密に取り、適切な人的管理と物的管理が行われるよう、情報を集約する。	教職員アンケート	A	100	0	0	0	100	98	◎教頭 ◎教務											
			④ 学校運営協議会委員の意見や要望を踏まえ、学校運営協議会委員の役割を明確にする。	学校運営協議会委員における指数90%以上	A	【考察】<前期比較 1ポイント上昇> 学校運営協議会委員の意見や要望を踏まえ、学校運営協議会委員の役割を明確にする。	地域有識者アンケート	A	88	13	0	0	97													
学校運営協議会委員の所見					学校の対応					◎教頭 ◎教務																